

Crematory

火葬場整備を考える

建設候補地の検討結果を市長へ報告

火葬場建設候補地検討委員会の第6回会議が12月17日、市役所で開催されました。

会議では、これまでの経過を含め、建設候補地の選定に関する検討結果をまとめた報告書を検討委員から柳澤市長へ提出しました。

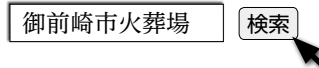
検討委員会は、具体的な候補地を選定せず、候補地の選定に必要な評価軸の設定と抽出された15カ所の候補エリアに対する意見集約をもって検討結果としました。候補地の選定については、市民意見を十分理解した上で、検討委員会が作成し

た「評価基準(案)」を活用し、市が選定するよう要望しました。

市民の代表らで構成する検討委員会の実質的な役割はこれで終了となります。今後は市の幹部職員による市内選定会議で候補地が1カ所に絞り込まれ、最終的に市長が建設候補地を選定する予定です。

報告書を受け取った柳澤市長は「火葬場整備は、市民の合意がなければできないと考えています。検討委員会の意見を受け止めた上で、誠実かつ着実に取り組んでいきたいと思ひます」と話しました。

火葬場整備に関する詳しい情報は、市ホームページをご覧ください。



▲柳澤市長へ報告書を提出する検討委員

照 会 環境課 ☎0537-1162

Atomic

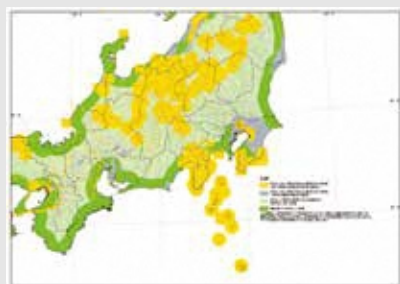
暮らしと原子力

高レベル放射性廃棄物の地層処分と科学的特性マップについて

原子力発電所で使用した燃料は、再処理することでウランやプルトニウムを新たな資源として利用することができます。しかし、再処理の過程で再利用できないものも残ります。この再利用できない燃料をガラス原料と混ぜて固めたものを「高レベル放射性廃棄物」と呼びます。

高レベル放射性廃棄物の中には、放射能レベルが十分に減衰するまでに、長期間を要する放射性物質が含まれています。そのため、人間の生活環境から遠ざけて管理する必要があり、地下深くの安定した岩盤に閉じ込める方法が最適であると、国際的に検討結果が出ています。これを「地層処分」と呼びます。

国は、この地層処分に向け平成29年7月に「科学的特性マップ」を公表しました。マップは、火山活動や断層活動と



▲静岡県周辺の科学的特性マップ (経済産業省ホームページより)

いった自然現象の影響や地下深部の地盤の強度や地温の状況など、地層処分に関する地域の科学的特性を客観的に整理し、地図に示したものです。

科学的特性マップの公表を機に、国では地層処分への理解を深めてもらおうと、全国で説明会を実施しています。県内では、平成29年10月24日に静岡市、平成30年12月9日に浜松市でそれぞれ実施されました。みなさんも、この機会に地層処分について考えてみてはいかがでしょうか。